

学校教育における主権者教育

平成30年12月26日（水） 主権者教育推進会議第3回
（全国高等学校長協会）東京都立豊島高等学校長 大山 敏

1 主権者教育の具体的な展開

(1) 選挙教育（cf. 選挙啓発）

- 模擬選挙（特別活動や総合的な学習の時間など）
 - 小中学校 … 児童会代表選挙・生徒会役員選挙で選管と連携
立会演説会と投票の合間に選管が選挙制度について説明
実際の投票用紙交付機や記載台・投票箱・計数機を貸出し
小中生のニーズに合わせた複数の政党に模擬投票させる例も
 - 高等学校 … 架空の市や町の複数の候補者に教員や卒業生が扮し立会演説会
社会保障や社会資本、租税や立法に関する対照的な政策を主張
実際の選挙の候補者に選挙公報に基づき模擬投票する進学校も
- 出前授業（公民的分野や道徳、現代社会、政治・経済、総合的な学習の時間など）
選管やNPO法人が授業を実施 アニメやプレゼンソフトを用いた制度説明

実際の選挙を本物の道具を使って疑似体験できることの意義と意味は大きい
一方で、客体として受動的に投票行為のみを行うイベントで継続的に選挙を通じて主権者として国政や地方自治に参画しようとの主体的態度を養うことは不可能

そこで



(2) 広義の主権者教育

- リテラシー（NIEの手法などを活用）
 - ・新聞記事を読み込みグループで見出しを考え、発表・投票で最適な見出しを決定
 - ・新聞記事を読み込みグルーピングした上で、その記事で取り上げられている社会的事象が政府の介入を求めているものか民間の自由な経済活動に委ねようとするものかをグループで判断しマトリクス上に位置付け、発表・修正
- ディスカッション
 - ・賛否を問う二項対立型 → 問題解決型 → 提案型
消費税増税の是非 所得格差などの解消 望ましい社会保障
- 合意形成
 - ・望ましい社会の在り方について先哲の政治・社会思想（功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム、フェミニズム、共同体主義など）を活用して論議し合意

- 政策立案
 - ・少子高齢化をテーマに「子育てしやすい環境づくり」「持続可能な社会保障制度」という課題を追究し政策提言
- 模擬請願
 - ・実際は議会の議場を見学したときに地域の課題について質問や要望など
- 模擬議会
 - ・各校で実施した地域の活性化策を討論するグループワークの成果を代表グループが議会で発表
 - ・小中学校では子どもたちの質問に市長はじめ執行部が答弁する形式でも実施
 - ・中学生サミットや高校生サミットとしても実施

学校の教育活動＝学習活動として一生懸命やっている小中高生
 → 大学生等まで態度が持続しないことが課題
 他者と協働して自分の見方・考え方を成長させる取組を社会参画の態度形成にいか
 に架橋させるかが課題

2 社会的要請から推進される様々な〇〇教育を統合し中核となる主権者教育

- (1) 人権教育
- (2) 道徳教育
- (3) キャリア教育
- (4) 国際理解教育
- (5) 伝統文化理解教育
- (6) 消費者教育
- (7) 法教育
- (8) 金融（金銭）教育
- (9) 市民教育

3 公民科の必修科目「公共」に期待すること

- (1) 主体性と当事者意識についての課題解決
 - 課題の大きさや解決困難さに圧倒される生徒
- (2) 方法（方略）的知識の習得
- (3) 〇〇教育を包摂して課題追究につなげる科目の特色

「課題を多面的・多角的に捉え、自らの意見を形成し、根拠をもって自らの考えを主張して他者を説得し、また合意形成を図る力を育む」という主権者教育のあるべき姿を実現する科目として「公共」に期待